

横浜市小学校社会科研究会

6学年部会

研修会記録

第6号

令和5年 12月6日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 金井 伸一

【提案日時】

11月1日(水)

提案 諸橋 奈苗 先生(都筑小)

【会場】

平沼小学校

司会 高橋 淳平 先生(井土ヶ谷小)

記録 竹永 記士 先生(豊岡小)

1. 単元構想の変更等

2. 教材について 検討等

- ・「なぜ学校に行くの?」という子どもの問いに答えたい(前回と同じ 軸)
- ・福沢諭吉は3回海外遠征している
- ・『学問ノススメ』は原文と現代語訳両方を読ませる。
- ・国民は『学問』の必要性をいつから感じるようになったのか。
- ・『学問ノススメ』とその他の本の売上げの差から考えるのはどうか。
- ・外国の文化や考え方を取り入れる=学校の必要性を考えることにつながるのではないか。
- ・「自分から学ぼう」という意思→勉強することで『一人ひとりが考えをもつ 独立』につながる→外国に負けない国づくりにつながっていく?
- ・明治政府と福沢諭吉の考え方を比べたり、この政策が国民のどのような影響を及ぼし成果があったのか考えたりするのはどうか。
- ・『学制』では5万校建てる予定だったが、実際は2万校程度にとどまった。ヨーロッパの学区制を基準に予定したから。子どもから出そうな意見は「お金はどこから?」等

3. 本時の検討

- ・テーマの「似ているか」に関しては、さっと答えが出ると考えられるため、要変更。
変更案「明治政府と福沢諭吉の考え方は似ていたが、(ねらいは)実現されたのか」
- ・「本当に似ているのか」「実際はどうか(似ているのか)」
- ・なぜ福沢諭吉は明治政府に入らずに民間の立場で自分の考えを広めようとしたのか。
- ・彼のやり方はこの時代に合っていたのか 人々の暮らしが変わったから学問に対する考え方が変わったのか、人々の学問に対する考え方が変わったから人々の暮らしが変わったのか等
→考えが深まってくるとよい。
- ・「学制」の失敗から次の単元以降「大日本帝国憲法」につながる(ドイツ憲法を基にした)
- ・福沢諭吉の位置づけに関して考えさせる。明治政府の意見番等ではなかった。
- ・この単元を諭吉で教えるのか、時代で教えてその中に諭吉を位置づけしていくのか。

- 単元の導入で福沢諭吉の視点を持たせてからスタートしてもよい。
- 福沢諭吉は何を原動力に頑張った人なのか、江戸から明治への移り変わりに憤りを覚えたから？など考えさせる。
- 江戸時代260年の帯と比較して変化した数年を見る。
- 福沢諭吉の「天は人の上にも下にも人をつくらず」の考え方が受け入れられたのはなぜか。
- 人々が変化した30年には何があったのか等を考えさせてもよい。

世話人校長先生より 荏田小学校 伊藤 智樹校長先生

- 小学校と中学校の社会では扱いに違いがあるため、指導要領で示されているところを逸脱しなければ、自由な授業づくりをしてよい。（本時のように子どもからの思いをくみ取った授業づくり）
- 子どもたちの知識の点と点を結んで、受験のための勉強ではなく、好奇心からの勉強を引き出していけると、子どもたちが楽しく学ぶことができる。→本時の学習問題テーマは少し簡単なので、変更案を基に変えていくとよい。

（他にもご意見を頂きましたが、前述の指導案検討の中にまとめて記載させていただいております）

文責 坂本 実（川和東小学校）